

上映スケジュール Calendrier		
1.16 (金)	16:00	気のいい女たち <i>Les Bonnes femmes</i> (100 分)
	18:30	女鹿 <i>Les Biches</i> (99 分)* 上映後、五所純子さんによるトークショーあり (約 50 分) <i>suivi d'une discussion avec Junko GOSHO</i>
1.17 (土)	12:00	ヴィオレット・ノジエール <i>Violette Nozière</i> (124 分)
	15:00	沈黙の女/ロウフィールド館の惨劇 <i>La Cérémonie</i> (111 分)* 上映後、五所純子さんによるトークショーあり (約 40 分) <i>suivi d'une discussion avec Junko GOSHO</i>
	18:30	甘い罠 <i>Merci pour la chocolat</i> (100 分)
1.18 (日)	13:00	気のいい女たち <i>Les Bonnes femmes</i> (100 分)
	15:30	不貞の女 <i>La Femme infidèle</i> (98 分)*
	18:00	肉屋 <i>Le Boucher</i> (93 分)* 上映後、エレーヌ・フラパさんによるオンライントークショーあり (約 60 分) <i>suivi d'une discussion en ligne avec Hélène Frappat</i>
1.23 (金)	19:00	ヴィオレット・ノジエール <i>Violette Nozière</i> (124 分)
1.24 (土)	13:00	主婦マリーがしたこと <i>Une affaire des femmes</i> (110 分)
	15:30	沈黙の女/ロウフィールド館の惨劇 <i>La Cérémonie</i> (111 分)
	18:30	引き裂かれた女 <i>La Fille coupée en deux</i> (115 分)
1.30 (金)	16:00	最後の賭け <i>Rien ne va plus</i> (105 分)
	18:30	ベティ <i>Betty</i> (103 分)* 上映後、三浦哲哉さんによるトークショーあり (約 40 分) <i>suivi d'une discussion avec Tetsuya MIURA</i>
1.31 (土)	14:00	主婦マリーがしたこと <i>Une affaire des femmes</i> (110 分)
	16:30	甘い罠 <i>Merci pour la chocolat</i> (100 分)
2.1 (日)	12:30	引き裂かれた女 <i>La Fille coupée en deux</i> (115 分)
	15:00	ベティ <i>Betty</i> (103 分)
	17:30	最後の賭け <i>Rien ne va plus</i> (105 分)

入場料金：一律 1,100 円 但し、* の付いている回のみ 1,500 円 (全席自由 / チケット番号順)
Peatix (<https://ifjtokyo.peatix.com/events>)にて発売中。
 窓口販売はございませんのでご注意ください | 上映開始 15 分前開場：上映開始 10 分後以降の入場はご遠慮下さい



クロード・シャブロール特集 2026 — 女性形のサスペンス
 主催：東京日仏学院、アンスティチュ・フランス 助成：CNC
 フィルム提供及び協力：アニエスベー、キングレコード株式会社、マーメイドフィルム、MK2、
 タマサ・ディストリビューション、ザ・フェスティヴァル・エイジェンシー
Claude Chabrol, suspense au féminin
 Organisé par l'Institut français de Tokyo | Avec le soutien du CNC
 Remerciements : agnès b., King Records, Mermaid Films, MK2,
 Tamasa Distribution, The Festival Agency

【会場・お問い合わせ】
東京日仏学院
 〒162-8415
 東京都新宿区市谷船河原町15
 TEL 03-5206-2500
 FAX 03-5206-2501
 Facebook : **instituttokyo** | Instagram : **institut_tokyo** | X : **institut_tokyo**



クロード・シャブロール傑作選

『女鹿』/『不貞の女』/『肉屋』

フランスの恐るべき巨匠が放つ、サイコ・サスペンスの傑作選 3 本が
2月13日 (金) より、シネマリス、Morc 阿佐ヶ谷 ほかで開催。

提供：マーメイドフィルム 配給：コピアポア・フィルム

「オフィシャルサイト」 claudeschabrol2026.jp

Claude Chabrol

suspense au féminin

クロード・シャブロール 特集 2026 女性形のサスペンス

【トークゲスト Invités】
エレーヌ・フラパ *Hélène FRAPPAT* (小説家・映画批評家／オンライン)
五所純子 *Junko GOSHO* (作家・文筆家)
三浦哲哉 *Tetsuya MIURA* (映画研究・評論)

2026.**1.16** (金) — **2.1** (日)
東京日仏学院 エスパス・イマージュ
 Du 16 Janvier au 1^{er} février 2026 à l'Institut français de Tokyo



クロード・シャブロール特集 2026 ――― 女性形のサスペンス

ベルナデット・ラフォン、ステファーン・オードラン、イザベル・ユペール、サンドリーヌ・ボネール、マリー・トランティニャン、リュディヴィーヌ・サニエ……。クロード・シャブロールは男性中心で保守的に膠着した世界に、女優たち、女たちを投じることで、そこに混乱と攪乱をもたらし、彼女たちとともに鮮烈なサスペンスを創り出してきました。ステファーン・オードランを主演に迎えた3本の傑作『女鹿』、『不貞の女』、『肉屋』がレストア版でロードショーするのを機に、トークイベント付きで特別先行上映します。その他にも、シャブロールが“女性を核に据えた”名作を厳選した7本を特別上映。極上の「女性形のサスペンス」の世界をじっくりとご堪能ください。

上映作品 **Programme**（すべて日本語字幕付）

〈クロード・シャブロール傑作選〉スペシャル・プレミア上映

2月13日（金）より、神保町の新しい映画館シネマリス、Morc 阿佐ヶ谷ほかにて開催される「クロード・シャブロール傑作選」の3本を特別先行上映します。これら3本に主演する女優ステファーン・オードランとクロード・シャブロール監督は、長年にわたり公私の両面でパートナーとして歩み、20作を超える映画で協働しました。その緊密な創作関係は、フランス映画史に深く刻まれた名コンビとして高く評価されています。



©Les films La Boétie

女鹿 *Les Biches*

【フランス／1968年／99分／カラー】

出演：ステファーン・オードラン、ジャン＝ルイ・トラティニャン、ジャクリーヌ・ササル

父の莫大な遺産で気ままな一人暮らしをしている女性フレデリックは、晩秋のパリの街角で画家志望の娘ホワイと出会いサン＝トロペの別荘へ連れて行く。自由な関係を築いていた二人のもとに建築家ポールが現れ、嫉妬や欺瞞が生まれる。支配者、被支配者であり、分身のようでもある、女ふたりの濃厚かつミステリアスな関係を描くシャブロール“絶頂期”の傑作。



©Les films La Boétie

不貞の女 *La Femme Infidèle*

【フランス＝イタリア／1969年／98分／カラー】

出演：ステファーン・オードラン、ミシェル・ブーケ、モーリス・ロネ

保険会社の重役のシャルルは、ふとした偶然で妻エレーンの不倫を知ってしまい、相手の男の家を訪ねる。数少ない登場人物、切り詰められた台詞と控え目な俳優の演技、ミニマルな姿勢に徹することで達成された高度なサスペンス描写と繊細極まる心理描写は、シャブロールの作品中屈指の精妙さを誇る。夫と妻と愛人、この世で最もありきたりな題材から独創的な映画を撮ろうという試みは面白かった――クロード・シャブロール



©Les films La Boétie

肉屋 *Le Boucher*

【フランス＝イタリア／1970年／93分／カラー】

出演：ステファーン・オードラン、ジャン・ヤヌヌ、アントニオ・パッサリア

ペリゴール地方の小さな村で小学校の教師を務めるエレヌは、ある結婚式で、帰還兵である肉屋のポールと出会い、親しくなる。一方、村では女性の連続殺人事件が起こり、美しい自然に彩られた村の日常が不穏なものになっていく。人を愛しきることができない女、そして果てしない闇を抱えた人間が絞り出す一瞬の切実さ。これぞシャブロール流愛の犯罪劇。



© D.R.

気のいい女たち *Les Bonnes femmes*

【1960年／100分／モノクロ／デジタル】

出演：ベルナデット・ラフォン、クロチルド・ジョアノ、ステファーン・オードラン、ルシール・サン・シモン

小さな家電屋で働く四人の若い女性たち。男たちの誘いに乗るジェーン、平凡な結婚を受けたり夕、秘密を抱えたジネット、大恋愛を夢見るジャクリーヌ――昼間には仕事の合間に談笑し、退勤後は夜のパリに繰り出す日々を送る女性たちの日常生活が、徐々に男性たちに侵犯されていく。シャブロールが初めて女性の群像劇に挑んだ初期の重要作。



©D.R.

ヴィオレット・ノジエール *Violette Nozière*

【フランス＝カナダ／1978年／124分／カラー】

出演：イザベル・ユペール、ステファーン・オードラン、ジャン・カルメ、リサ・ラングロワ

1933年に実の両親を毒殺した罪で有罪となった実在の人物ヴィオレット・ノジエールを題材としたシャブロール監督の代表作。本作でカンヌ国際映画祭最優秀女優賞を受賞したイザベル・ユペールはステファン・オードランの後を継ぐシャブロール映画のミュージズとなり、シャブロール後期の傑作群とともに生み出していく。「イザベル・ユペールは私の頭の中にある女性のリアリティを表現するのに欠かせない存在だ」――クロード・シャブロール



©MK2

主婦マリーがしたこと *Une Affaire de femmes*

【フランス／1988年／110分／カラー】

出演：イザベル・ユペール、フランソワ・クリュゼ、マリー・トランティニャン、ニルス・ダヴェルニエ

ナチ占領下のフランス。主婦のマリーは生計のために法律で禁じられている“妊娠中絶”を女たちに施していた。だが夫に密告され逮捕された彼女を待っていたのはギロチンだった…。シャブロールは、心理描写や時代背景を説明することより、限られた舞台セットの中で日常のディテールと登場人物たちの行動を巧みに演出することで、彼女、彼らの「真実」に見事に達している。ユペールはヴェネチア国際映画祭にて主演女優賞受賞。



©MK2

ベティ *Betty*

【フランス／1992年／103分／カラー】

出演：マリー・トランティニャン、ステファーン・オードラン、ジャン・フランソワ＝ガロー

「穴」という名のレストランに身を寄せ、アルコールに溺れる若い女性ベティは、その店のオーナーの愛人であるローラと知り合う。ローラはベティを自分の屋敷に迎え、ベティは自分の過去の結婚生活について話し始める…。シャブロールが偏愛し、たびたび映画の原作に選んだシムノンのあまり知られていなかった同名小説をスクリーンに見事に蘇らせた隠れた傑作。マリー・トランティニャンの怪優ぶりが素晴らしい。



©MK2

沈黙の女／ロウフィールド館の惨劇 *La Cérémonie*

【フランス＝ドイツ／1992年／111分／カラー】

出演：イザベル・ユペール、サンドリーヌ・ボネール、ジャクリーヌ・ビセット、ジャン＝ピエール・カッセル

メイドと郵便配達員、そして一見して非の打ちどころのない家族。階級を題材にしたサスペンス小説の舞台で、偽善、策略、そして沸き立つ怒りがしだいに明らかになる。ルース・レンデルの小説を原作とした本作は、地方のフランス中産階級を描いた、シャブロールのもっとも苛烈な作品と言えるだろう。ユペールとボネールはその素晴らしい演技で、揃って95年ヴェネチア国際映画祭の主演女優賞に輝いた。



©MK2

最後の賭け *Rien ne va plus*

【フランス＝スイス／1997年／105分／カラー】

出演：イザベル・ユペール、ミシェル・セロー、フランソワ・クリュゼ

詐欺師のヴィクトールと年の離れた弟子ベティのコンビは、カジノにやってきた客を騙し、小金を稼ぐ日々を送っていた。次の獲物として二人が目をつけたのは、大金が入っていたアタッシュケースを持つ男だった…。シムノンの小説を原作とした、ルビッチ風のコメディのテイストとヒッチcock風のサスペンス要素が混在した後年の意欲作。ユペールとセローが魅惑的な詐欺師コンビを演じている。



©MK2

甘い罠 *Merci pour le chocolat*

【フランス／2000年／100分／カラー／デジタル】

出演：イザベル・ユペール、ジャック・デュトロン、アナ・ムグラリス

ピアニストのアンドレと再婚したミカは、前妻の息子と三人で、郊外の邸宅で穏やかに暮らしていた。ある日、ピアニスト志望の娘ジャンヌが現れ、レッスンのために家に入り出すようになったことで、ミカの不穏な心の闇と過去がしだいに明らかになっていく…。ミカという女性は空虚であるため、さまざまな状況や感情、感情の絡み合いを通して自分自身を作り上げようとし、それが彼女を怪物のような存在へと導いていきます――イザベル・ユペール



©D.R.

引き裂かれた女 *La Fille coupée en deux*

【フランス／2007年／115分／カラー】

出演：リュディヴィーヌ・サニエ、ブノワ・マジメル、フランソワ・ベルレアン

20世紀初頭のアメリカで起こった「スタンフォード・ホワイト殺害事件」をベースに、年齢も性格も異なる2人の男に愛されたヒロイン、ガブリエルが、歪んだ恋愛関係に溺れ、自分を見失っていく様子を描く。濃密で重厚、感動的で、シャブロール監督の晩年の最高傑作の一つであり、豪華なキャスト陣が光る。

「私たちはいまだに男性的、ほとんどマッチョと言っていいたいような世界に生きています。だからこそ、女性は男性よりも興味深いのです。日常の中にいる女性は、それだけで真の主題になるし、奇妙で、犯罪的で、謎めいた女性は“主題そのもの”になります」――クロード・シャブロール